

博士学位審査論文

松本 和也

イエズス会宣教師が見た中近世移行期日本の国王と国家

目次

序章	イエズス会宣教師の権力者・国家認識の意義	1
一	中近世移行期研究の現状	1
二	中世・近世国家論の研究成果	2
三	中近世移行期研究とイエズス会史料	4
四	本論文の構成と各部・各章の意義	6
第一部	イエズス会史料における中近世移行期権力	13
第一章	ルイス・フロイス書翰の日本語表記	13
はじめに		13
一	リスボア国立図書館所蔵フロイス書翰について	13
二	日本語表記箇所を検討	14
おわりに		26
第二章	永禄一二年宗論に関する基礎的考察	31
はじめに		31
一	永禄一二年宗論の信憑性	31
二	永禄一二年宗論の内容的考察	33
三	永禄一二年宗論の性格と意義	36
おわりに		38
第三章	イエズス会宣教師宛織田信長朱印状	42
はじめに		42
一	朱印状が出された経緯	42
二	信長文書の復元的考察	44
三	朱印状の性格	47
おわりに		51
第四章	永禄四・五年の畿内合戦とイエズス会の畿内布教	55
はじめに		55
一	畿内合戦情報伝達の背景	55
二	ヴィレラ書翰の諸写本との照合	56
三	内容的検討	56
四	畿内合戦と畿内布教	63
おわりに		65
第五章	日乗の後半生	70
はじめに		70
一	先行研究に見る日乗記述の「終見」	70
二	天正年間における日乗記事	71
三	イエズス会書翰の誤読	75
おわりに		79
第六章	永禄一二年伴天連追放の繪圖をめぐって	82
はじめに		82
一	信長・義昭の上洛とフロイスの信長謁見	83

二 仏教徒とキリシタンの対立と永禄一二年宗論	84
三 伴天連追放の論旨	86
四 永禄一二年段階の中央権力	89
おわりに	92
第二部 イエズス会宣教師の権力者・国家認識	99
第一章 イエズス会初期布教期の権力者・国家認識	99
はじめに	99
一 権力者を示す語について	99
二 権力者認識の変化	105
三 名目的権威と実質権力	107
おわりに	109
第二章 フランシスコ・ザビエルの天皇・將軍認識	113
はじめに	113
一 「国王(roi)」の該当者分析	113
二 ザビエルの天皇・將軍認識	119
おわりに	124
第三章 畿内布教期の権力者・国家認識	128
はじめに	128
一 日本の権力者情報の変遷	129
二 宣教師の天皇・將軍・大名理解と表記	134
三 宣教師の権力者・国家理解	141
おわりに	144
第四章 イエズス会宣教師の「天下」理解と朝廷理解	149
はじめに	149
一 戦国期・織豊期の権力者・国家認識	149
二 宣教師の信長・秀吉認識と「天下」の使用	150
三 「天下」という語句に対する理解	155
四 天皇権威に対する注目	158
おわりに	160
第五章 日本王権の重層性と二重性	166
はじめに	166
一 イエズス会史料の訳語「王」の解釈	167
二 「王」から王権論へ	171
おわりに	174
終章 連合国家と二人国王	179
はじめに	179
一 イエズス会史料の新たな価値	179
二 イエズス会による中近世移行期日本の国家観	181
三 連合国家との認識	182
四 二人国王との認識	185

おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・186